

# 吉原殿中の始まり

水戸市

江戸時代の終わり頃、水戸の殿様は第九代・徳川斉昭(烈公)でした。

斉昭は、第七代藩主の父・徳川治紀の三男で、第八代藩主の兄・斉脩の死後、家督を継承。現在も水戸市三の丸に残る藩校「弘道館」を設立したこと、藩政改革に成功した人物としても知られています。

文武を奨励し、階級を問わず広く優秀な人材を登用するなど民政を重視し、封建体制と困窮した藩財政の立て直しをはかっていました。

また、当時、水戸藩が財政難のため毎年幕府から援助されていた一万石を返上することにしたのも斉昭でした。三十五万石で生活が成り立つように自らも質素な生活をするよう心がけました。そのため、御殿の中の女中たちも、日々、節約につとめました。



そんな中、奥女中の一人である吉原は、食べ残しの飯粒を見て「なんとか利用する方法はないだろうか」と、考えました。ある日、残った飯粒を洗って乾かし、炒ってからきな粉をまぶして食べてみたところ、大変おいしく出来上がったのです。

これを殿様に差し上げると

「これは美味しい」と、大層喜び、吉原を褒めました。

その後、御用菓子を作る職人たちが、さらに工夫を重ね、水戸の銘菓として有名になったと言われています(※諸説あり)今では、お土産やお茶うけとしても広く知られ、根強い人気を誇る「吉原殿中」。

食欲の秋、行楽の秋、散策の傍ら、歴史の中で受け継がれてきた銘菓を楽しんでみてはいかがでしょうか。

〈参考文献〉水戸の民話(藤田稔編著)



「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく

**ISUZU 茨城いすゞ自動車株式会社**

本社 / 〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(大代) <http://www.ibaraki-isuzu.co.jp>

いきいき茨城ゆめ国体2019  を応援しております。